

平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」申請書

設置形態	1. 国立	2. 公立	○ 3. 私立
大学名	北里大学	本部所在地	東京都港区白金五丁目9番1号
設置者名	学校法人北里研究所	学長名	柴 忠 義
取組学部等	海洋生命科学部		
取組名称 (全角20字以内)	海 洋 生 物 の 調 和 的 利 用 に 優 れ た 職 業 人 の 育 成		
キーワード (5つ以内)	海洋生物資源 実践的学習	教育改善システム 職業選択能力	キャリアデザイン
ふりがな	おがた たけひこ	所属部署名	海洋生命科学部・学部長
取組担当者	緒 方 武比古	及び職名	

取組の概要

趣旨・目的： 本取組は、海洋生物資源の調和的な利用に関わる優れた人材の育成を目指し、学生自身が描いたキャリアプランの下、学士課程教育を通して身に付けた知識・技能・態度を統合し、「主体的に就業できる就業力の育成」を目的とする。

世界的に水産資源の持続的な利用に関心が集まっている中、北里大学海洋生命科学部は、この分野で活躍できる有為な人材の育成に取り組んでいる。学生の学問に対する関心は高いが、反面、職業への意識は比較的低く、大学生活全体を通して見出そうとする者が大部分を占めている。従って学生が自らの生き方への基本的な展望を育むためには、「**正課教育と課外教育を有機的に結びつけた“学びがいのある教育システム”の構築**」が重要である。本学部は、人材育成目標に基づく明確な学習・教育目標、カリキュラム流れ図などを示し、計画的な学習を促し学習成果の達成に努めているが、立地も影響した現場の実践的学習不足等により社会的な能力の強化を課題としており、この点を改善する必要がある。そのためには体系的なキャリア教育の推進が不可欠である。それが、自己点検・評価を基盤とする教育改善システムを十全に機能させ、JABEEを含む外部評価意見を有効に活かし、就業力の育成を実現するものとする。

◇達成目標： 達成目標は、「学生自身の成長」と「就業力育成のための基盤整備」の各々について次のとおりである。

- 1 学生が卒業時に身に付けているべき能力・態度・意欲
建学の精神の意識化、確かなキャリアデザイン力、高い職業意識、知識・技能・態度の統合力、実践的な企画力、就業への高い意欲、確かな職業選択能力、社会人としての自立性、職業倫理の深化
- 2 就業力の育成に必要な基盤整備
キャリア形成科目の拡充、就業体験プログラムの開設、地域連携協力機関の組織化、就職支援体制の充実、キャリア形成支援室の設置、支援協力人材の組織化

達成目標は、それぞれ該当するインプット、プロセス、アウトプット、アウトカムの各目標に区別する。あらかじめ設定した評価指標を基に中間評価・最終評価を行う。

◇取組内容： 具体的な取組内容は、①学士課程教育全体にわたる「**体系的なキャリア教育の構築**」、②正課授業と課外教育を有機的に結び付けた「**融合型授業科目の設置**」、③「**キャリアデザイン形成支援プログラム**」、④地域連携による「**就業体験プログラムの充実**」、⑤各プログラムを展開・支援するシステム「**キャリア形成支援室の新設**」「**卒業生・在学生ネットワークの構築**」の5つのプログラムをもって構成し、計画的に就業力を育成するものである。

◇実施体制： 「キャリア形成支援室」が取組の中核となりプログラムを進める。これに学部教務委員会、学生指導委員会、就職委員会が参画する。全学機関では一般教育部、教学センター、就職センターと全学教育委員会、全学学生指導委員会、全学就職委員会が連携する。学外では地域連携企業、卒業生ネットワークが支援する。

◇評価体制： 学部では学部自己点検・評価委員会、JABEE 対応委員会、FD 委員会がプログラム評価を行う。卒業生満足度調査、就業先満足度調査を行い、意見を反映させる。学部評価結果は、全学自己点検・評価委員会、全学点検・評価室で再評価する。

1 選定の要件【3 ページ以内】

(1) ～ (3) についてその実施内容（計画）を簡潔に記載してください。

(1) 就業力の育成について、本事業の「趣旨」に沿って、従来の大学教育に加え、就業して役立つ実学的専門教育を含む体系的な計画が策定されていること。

本取組は、海洋生命科学に関わる学士課程教育を通して学生の確かな人間的成長を支援するため、「学部カリキュラムの改善」「正課・課外の融合型授業科目の設置」「就業体験プログラムの充実」などを一体化したキャリア教育体系を構築し、運用する。運用に必要な基盤整備も行う。これにより、海洋生物資源の利用に関わる知識・技能・態度を、正課・課外を横断する学士課程教育を通して統合し、学生自身が卒業後社会で役立つ就業力を身に付けたと認識できることを目指している。以下に本事業の「趣旨」と計画している各プログラムとの関係を述べる。

①自らの職業観・勤労観、生き方についての基本的な展望：

「i. 学士課程教育全体にわたる体系的なキャリア教育の構築」が対応する。

本学部は、当該分野における就業の支えとなる能力を学習・教育目標として設定し、教育プログラムを構築、運用してきた。各授業科目は各目標との対応が図られており、学生は各授業科目の位置付けを把握しながら目標に対する到達度を自ら認識することができる。カリキュラム改定（平成20年度）に際し、卒業生受け入れ企業から強く要望されてきた、コミュニケーション能力、語学力、デザイン能力、技術者倫理の獲得に関わる実践的な授業科目を開設した。一方、初年次教育については、“大学生としての学び方”を学習する「教養演習B」、建学の精神を伝える自校教育「北里の世界」、職業観・勤労観を培う「仕事と人生」等の授業科目を配置し、体系的なキャリア教育を行う基盤ができています。この基盤を後述の「就業ポートフォリオの導入」で強化する。

②将来の進路を自ら選択できる能力：

「就業ポートフォリオの導入」「カリキュラム流れ図による履修過程の明示と履修指導」が対応する。就業ポートフォリオは、学生が自らの就業目標を形成し自己省察に活用する。助言指導は、新設の「キャリア形成支援室」の専門スタッフが中心となって当たる。正課教育では、明確な学習・教育目標、カリキュラム流れ図などを学生に示し、計画的な学習を促し学習成果の達成に努めているが、カリキュラム内容の不足や重複を把握するために、カリキュラムマップの導入も検討する。

③卒業後に役立つ社会的に必要な能力や実践的な能力：

「ii. 正課授業と課外教育を有機的に結びつけた融合型授業科目の設置」「iii. キャリアデザイン形成支援プログラム」「iv. 就業体験プログラムの充実」が対応する。

ii. 融合型授業科目は、各授業科目で獲得した知識・理論・技術・視点の統合化に資する新たな取組として、専門科目における産業人講師の招聘、実地体験の導入を推進する。また授業科目「体験実習」において学生自身が企画運営する各種プロジェクトを支援する。これら座学と現場体験の融合を通じて、当該産業分野の国際的・社会的重要性を理解するとともに、将来へ向けた興味・関心を引き出す。

iii. キャリアデザイン形成支援は、2つの取組をもって構成される。

「就業力養成支援講座の開設」：初年次から開始する就業力養成支援講座では各分野の第一線で活躍する卒業生や地域産業の担い手を講師とし、水圏生物の利用に関わる

多様な分野の“仕事”に関する情報を体系的に提供する。また現場体験の紹介を通じて、仕事に求められる能力・資質・態度の理解を促す。

「卒業生・上級生アドバイザー制度の構築」：卒業生の産業分野、職種別ネットワークを活用したアドバイス体制を構築し、学生自身による情報収集と職業観獲得の自立的システムとして機能させる。インターネット上に掲示板を構築、自身のキャリアデザインに応じて社会人の視点や業種・職種による働き方の違いを理解する。上級生アドバイザーは、メンターの役割を担う。上級生のキャリア形成過程や就活体験を直接下級生に伝え、就業意識に現実感をもたせ就職・進路選択を支援する。

iv. 就業体験プログラムは、直接現業に触れる機会を豊富にし、職業選択能力を育むことを目的とする。増養殖、流通、加工、販売、環境保全、行政、社会教育分野など多様な職場を初年次から3年次にかけて幅広く体験できるようにする。これらの経験は仕事の意味、仕事に必要な資質・能力、学びの意義や方向性を自らのものとして受け止める契機となる。

(2)「社会的・職業的自立に関する指導等」(キャリアガイダンス)を行う、大学内の組織間(例えば、教育を行う学内組織、厚生補導を行う組織、教務部・学務部等の事務組織)の有機的な連携による、適切な体制が整えられていること。

①社会的・職業的自立に関する指導等の体制について

本学では、社会的・職業的自立に関する指導は、学士課程教育の実施主体である各学部・一般教育部、および実務支援部門である教学センター・就職センターが連携し実施している。諮問機関である全学教育委員会、全学学生指導委員会、全学就職委員会は実施主体に対して意見具申をする形で機能的に連携する。点検・評価は、全学自己点検・評価委員会(諮問機関)、全学点検・評価室(実務機関)が担当している。

海洋生命科学部では、教務委員会、学生指導委員会、就職委員会が連携し指導にあっている。新設される「キャリア形成支援室」は、相談・助言および5つのプログラムを推進する中核となる。

②担当する業務の内容について

海洋生命科学部： 正課・課外を横断する学士課程教育、キャリア教育(実施主体)

一般教育部： 学士課程教育のうち一般教養教育、キャリア教育(実施主体)

教学センター： 学務、教務、学生生活支援、課外活動支援

就職センター： キャリア形成支援、就職活動支援

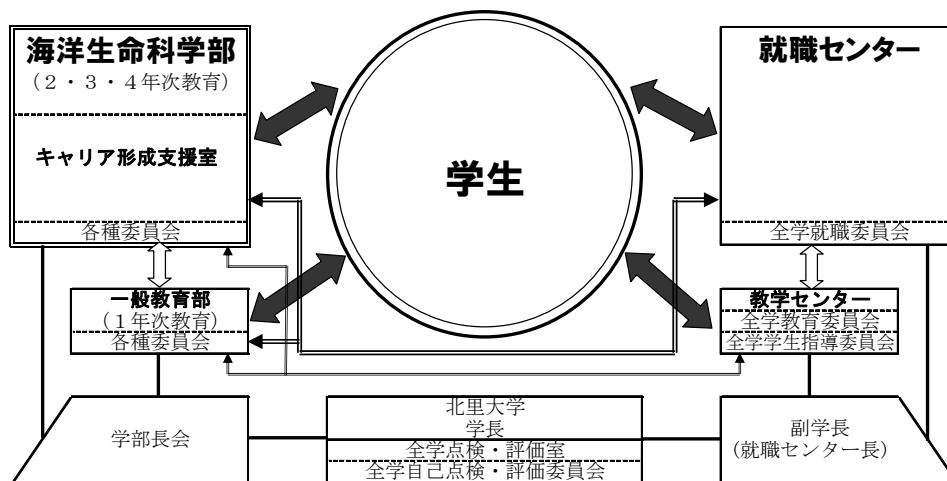
全学教育委員会： 学士課程教育全般の企画、立案、調整

全学学生指導委員会： 学生生活・課外活動・保健管理全般の企画、立案、調整

全学就職委員会： キャリア教育、職業・就職指導全般の企画、立案、調整

全学自己点検・評価委員会： 自己点検・評価全般の企画、立案、調整

全学点検・評価室： 第三者評価に関わる対応、自己評価の審査



(3) 就業力育成に関する大学の情報（学部等の人材養成の目的、授業科目の名称・内容、入学者・在学者・卒業者に関する情報等）を積極的に公表していること。

①教育情報の公表に対する本学の姿勢について

就業力育成に関する大学の情報は、大学ホームページに掲出し一般に公開している。本学では、情報公開の促進は、自己点検・評価の実質化とともに、大学の内部質保証を実現する手段として重視しており、その内容を拡大充実させている（大学ホームページ URL <http://www.kitasato-u.ac.jp>）。平成 23 年 4 月より公表が義務化される項目はもちろんのこと、国際的な大学評価活動の進展に対応した情報も含めて教育力の向上に資する情報は積極的に公表していく考えである。

②就業力育成に関する情報の公表状況について

1. 学部等の人材養成の目的

大学ホームページに全学部・学科を掲載。

2. 授業科目の名称・内容

学部名	情報の内容	公表の方法
薬学部	授業科目の名称・内容・配当年次	学部 HP
獣医学部	授業科目の名称・内容・配当年次	学部 HP
医学部	(学部 HP 未掲載)	(学部 HP 未掲載)
海洋生命科学部	授業科目の名称・内容・配当年次	学部 HP
看護学部	授業科目の名称・内容・配当年次	学部 HP
理学部	授業科目の名称・内容・配当年次	学部 HP
医療衛生学部	授業科目の名称	学部 HP
一般教育部	授業科目の名称・内容	一般教育部 HP

未掲載の項目は整備中

3. 入学者・在学者・卒業者に関する情報

入学者： 法人HPに当該年度 5 月 1 日現在の在籍者数を公表

在学者： 法人HP（教職員専用サイト）に各月 1 日現在の在籍者数を掲載

卒業者： 法人HPに前年度 3 月 31 日現在の卒業生数を公表

2 取組について【6 ページ以内】

(1) 取組の趣旨・目的・達成目標

①大学の置かれている状況の基本的な認識（学生の就業力の向上）

世界的に水産資源の持続的な利用に関心が集まっている中、本学部は海洋生物資源の利用に関わる幅広い分野で活躍できる人材の育成に取り組んでいる。学生は海洋生物に対する強い関心を抱いて入学する者が大多数である。彼らの生命現象の解明などに対する学習意欲は高く、その成長は大いに期待できるものの、職業に対する意識は低く、学生満足度調査（平成21年）においても入学者の職業関連項目への関心は7学部中最低であった（図1-a）。

これは、海洋生物の利用に関わる職業分野が生産、加工、流通、環境保全、教育など多岐にわたり、当該分野の多くは社会的な関心が集まりにくいという理由によるものと思われる。従って学士力の形成に加え、豊かな職業観・勤労観を基盤とした将来設計能力、職業選択能力の形成は、**確かな人間的成長を希求する学生の要望**（図1-b）に応える重要な課題である。前述の課題を抱える本学部の**就業力獲得に関する類型は、「科学的・専門的知識を有する技術者の養成」（平成22年5月17日 中教審キャリア教育・職業教育特別部会第二次報告）**に該当するものと認識している。

上述の状況を克服すべく本学部は、学習・教育目標（図2）に基づく教育プログラムの構築に取り組んできた。学習・教育目標達成の流れはカリキュラム流れ図（図3）として学生に明示している。さらに、自己点検・評価による改善システムを機能させるとともに**重層的な第三者評価システム**（分野別評価、機関別評価、卒業生・卒業生受け入れ企業による評価）を梃子に教育研究の継続的改善に取り組んできている。JABEE認定を始め外部評価による教育プログラムの高い評価（図4）は、質の高い教育カリキュラムとともに自主的な改善活動の成果であると受け止めている。

しかし、学士力のうち、「態度・志向性」「統合的な学習経験と創造的思考力」については、学生がこれらを意識しつつ学習成果を修める仕組の完成には至っておらず、相当な改善の必要がある。このことは、自己点検・評価結果に加え、学識経験者による外部評価（平成12年）やJABEE認定審査（平成21年）においても、①**学生に産業現場を体験させる必要性**、②**デザイン力や実務能力をより具体的に獲得する必要性**の指摘（図5）がある。本取組を契機に、これら課題の解決を通してより実践的で体系的なキャリア教育プログラムを構築し、学生が「**確かな人間的成長を確信できる“学びがいのある教育システム”**」を構築し、就業力の飛躍的向上につなげたい。

②取組の具体的な目的

本取組は、学生自身が描いたキャリアプランの下、学士課程教育を通して身に付けた知識・技能・態度を統合し、「主体的に就業できる就業力の育成」を目的とする。取組を通じて実現しようとする具体的な目的は以下のとおりである。

1. 正課教育の展開を通じた専門分野の知識・技能を含む汎用的能力の獲得
2. 正課内外の融合型授業科目を通じた職業観・勤労観の獲得
3. 就業力養成支援講座による海洋生物を基盤とする産業分野、職業の理解
4. 就業体験を通じた“仕事”の意義ならびに仕事に必要な能力・資質の認識
5. 自立的就業力養成システムとして卒業生・上級生アドバイザー制度の構築

6. プログラムの統合的展開を可能にするキャリア形成支援室の設置・運用

③取組による達成目標

本取組は、5年間を通じて達成すべき目標を以下のように設定する。

1. 学生が卒業時に身に付けているべき能力・態度・意欲

建学の精神の意識化、確かなキャリアデザイン力、高い職業意識、知識・技能・態度の統合力、実践的な企画力、就業への高い意欲、確かな職業選択能力、社会人としての自立性、職業倫理の深化

2. 就業力の育成に必要な基盤整備

キャリア形成科目の拡充、就業体験プログラムの開設、地域連携協力機関の組織化、就職支援体制の充実、キャリア形成支援室の設置、支援協力人材の組織化

達成目標は、それぞれ該当するインプット、プロセス、アウトプット、アウトカムの各目標に区別し、あらかじめ設定した評価指標を基に中間評価・最終評価を行う。

インプット目標	キャリア教育の充実（“体験実習”などの拡大、初年次教育の充実）、就業力養成支援講座の開設、キャリア形成支援室の設置、卒業生ネットワークの構築、卒業生・上級生アドバイザー制度の開設
プロセス目標	各授業における到達目標達成度の確認、インターンシップによる多面的能力の形成、就業ポートフォリオによる能力の形成
アウトプット目標	建学の理念の意識化（相当程度）、 明確な職業観・勤労観の形成（職業意識：4年次 66%→85%、職業選択への意識：4年次 78%→90%）、希望職種への就職率向上（53%→75%）、外部評価改善事項の達成（大学基準協会：4項目、JABEE：4項目）
アウトカム目標	入学目的の達成度、汎用的能力の獲得度、専門的知識・技能の獲得度、 就業・就職先への学生満足度、卒業直前学生の学生生活満足度、卒業生の就業力満足度、就業先の受け入れ学生に対する満足度

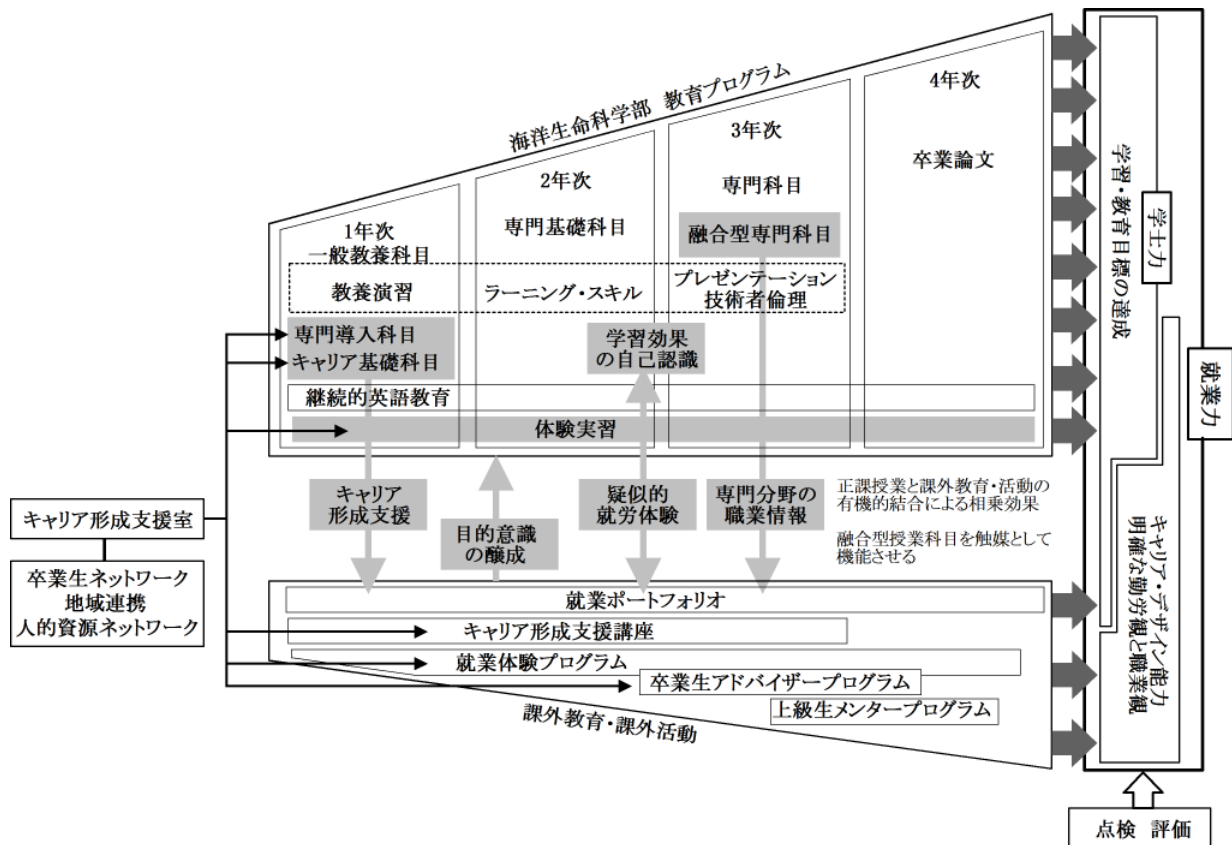
(2) 取組の具体的内容

①取組内容

学士課程教育プログラムの学習・教育目標を基軸とし、上述した6つの具体的目標の達成に向け、次の4つのプログラム（i～iv）およびその展開基盤を整備（v）し、正課授業と課外教育の相乗的効果による就業力の育成を図る。

- i) 学士課程教育全体にわたる「体系的なキャリア教育の構築」
- ii) 正課授業と課外教育を有機的に結び付けた「融合型授業科目の設置」
- iii) 「キャリアデザイン形成支援プログラム」
- iv) 地域連携による「就業体験プログラムの充実」
- v) プログラムを展開・支援するシステムの構築
 - ・キャリア形成支援室の新設
 - ・卒業生・在学生ネットワークの構築

以下に、プログラム構成および、その展開による就業力獲得の流れを図示する。



各プログラムの取組内容は以下のとおりである。

i) 学士課程教育全体にわたる「体系的なキャリア教育の構築」

本取組では、正課内にキャリア教育を以下のように体系的に組み込む。

- 1年次：** 「教養演習」(前期：選択必修)、「仕事と人生」(前期：自由選択)、「海洋生命科学概論 A、B」(各半期：必修)、「北里の世界」を通じ、大学で学ぶための基礎的スキルの習得、専門科目への導入、職業観・勤労観の形成を図る。またこれらの授業に卒業生による就業経験の紹介を導入し、キャリアデザイン形成の動機付けとする。
- 2年次－3年次：** 「ラーニングスキル」「プレゼンテーション」「技術者倫理」などを効果的に展開し、要約力、レポート作成力、プレゼンテーション能力、技術者倫理観など、“学士力”における汎用的技能を養う。これらは、後述の英語力とともに卒業生受け入れ企業から特にその強化が求められていることを反映させて平成 20 年度より新たに導入したものであり、PDCAサイクルを通じた改善を進めながら実施する。
- 4年次：** 4年次には「卒業論文」を通じて学習・教育目標に対する自らの到達度を認識、さらなる向上が図られる。

英語教育の充実： 海洋生物資源に関わる産業分野はグローバルな広がりを持つことから、これら分野での活躍には語学力と国際感覚の養成が必要である。現在も 1～4 年次を通じて英語科目を配しているが、さらに授業の継続性を持たせる仕組みを導入する。具体的には、CALLシステムやTOEIC試験の効果的活用、遠隔授業システムによる一般教育部のネイティブ教員との懇談、地元ALTの活用を推進する。

ii) 正課授業と課外教育を有機的に結び付けた「融合型授業科目の設置」

学生が専門の各学習の過程で当該産業分野の国際的・社会的重要性を理解していくことを支援するため、「座学と現場体験の融合」を図る。

専門科目における職業意識の醸成： 「水産物流通論」「水産経済学」「環境修復論」「種苗生産学」「食品安全学」などの海洋生物資源に関わる実学的専門科目に体験的授業内容（体験実習、現場見学）、産業人を招いた実務紹介を導入する。

体験的学習の拡充： 「体験実習」（3群選択科目：1～4年次）は、海洋研究機関の見学、水族館見学、洋上実習、食品加工体験、養殖体験などのメニューが用意され、学生が産業現場を知る貴重な場となっている。本取組においては体験実習をより拡張し、学生に社会との関わり、仕事を疑似体験させるメニューを導入する。すなわち、学生自身によって企画・運営される各種プロジェクトを支援し、実践的企画力、自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、責任感の養成と職業意識の醸成につなげる。

iii) 「キャリアデザイン形成支援プログラム」

正課教育課程の充実に合わせて、課外のキャリア支援活動の改善・強化を進める。

キャリアデザイン形成支援講座： 現在の就職支援プログラムを再編し、新たにキャリアデザイン形成支援講座を展開する。本講座では、従来の就職活動支援に加え、各分野の第一線で活躍する卒業生や地域産業の担い手を講師とし、水圏生物の利用に関わる多様な分野の“仕事”に関する情報を体系的に提供する。また職業現場の紹介を通じて、仕事に求められる資質・能力・態度の理解を促す。さらに、「技術士」を講師に招聘し、JABEEプログラムの有効性と将来性を実感できる機会とする。

卒業生・上級生アドバイザー制度： 各学生の興味、関心やキャリアデザイン形成の進行段階に応じて社会人の先輩（卒業生アドバイザー）に対して現場の情報や職業人として必要な資質・能力を随時質問できる環境をWeb上に構築する。また、身近な先輩をアドバイザーとする「上級生メンター」制度を導入する。このシステムでは、就職活動開始前後の3年次生に対して、進路が決定した4年次生が就職・進路に関する自主的な相談会を企画・開催し、就職・進路選択を上級生の視点から支援する。

就業ポートフォリオの作成と活用： 卒業後の働き方や将来設計とともに、希望職種に必要な資質・能力、目標に対する到達度を定期的（半年ごと）に自ら整理するシステム「就業ポートフォリオ」を導入する。全学就職センターおよびキャリア形成支援室のスタッフはこれらに基づき就業にかかわる指導・助言を行う。この過程は自発的な目標形成と自己点検の中核的駆動力と位置付けられる。

iv) 地域連携による「就業体験プログラムの充実」

豊かな職業観や職業選択能力を育むためには、直接現業に触れる機会を豊富にすることが重要である。これらの経験は仕事の意味、仕事に必要な能力、資質、学びの意義や方向性を自らのものとして受け止める契機となる。本取組では増養殖、流通、加工、販売、環境保全、行政、社会教育など多様な職場を幅広く体験できるプログラムを整備する。本プログラムは地域自治体や企業との連携事業として展開する。

v) プログラムを展開・支援するシステムの構築

キャリア形成支援室の新設： キャリア形成支援室を海洋生命科学部に新設する。本計画は、正課内外のキャリア教育の統合的展開を図るものであり、これらを横断的に取り扱う中核的な組織が不可欠である。支援室は、全学就職センター、学部学生課・教務課と協力し、一連の取組の企画・実施にあたる。また、卒業生ネットワークの構築・運営及び地域連携推進の中心的役割を担う。

卒業生ネットワークの構築： インターネット上に卒業生の「業種、職種別ネットワーク」を構築する。本ネットワークは卒業生アドバイザー（iii）として機能するとともに、キャリアデザイン形成支援講座における人的資源を構成する。

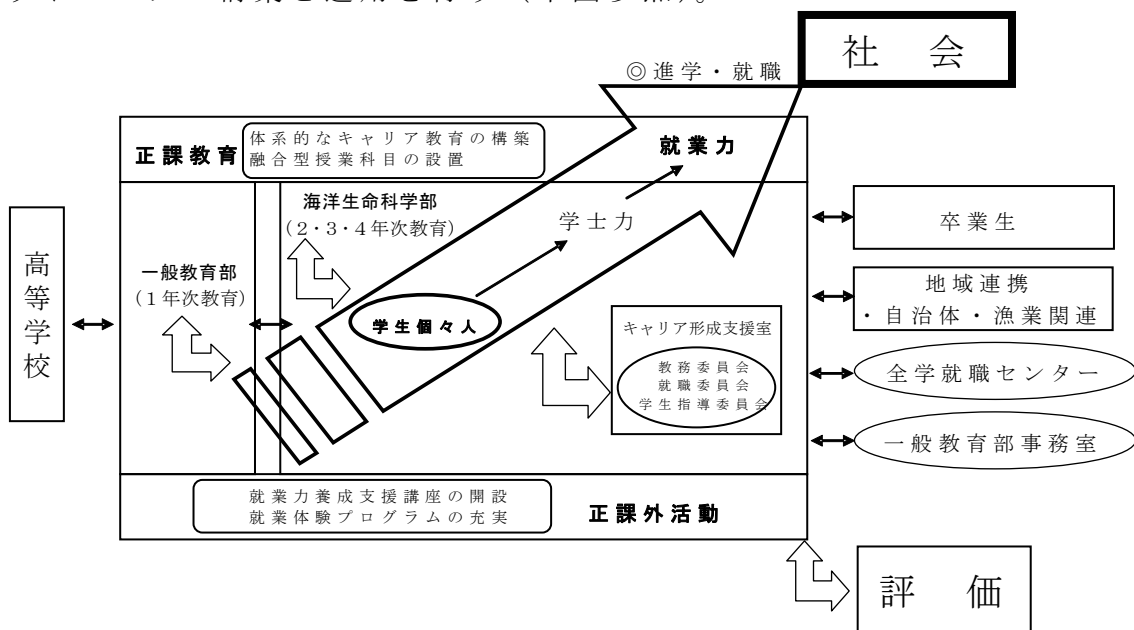
②取組の全体スケジュール及び各年次の実施計画

取組の全体スケジュール

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
【体系的キャリア教育】 一般教養課程		新規キャリア科目開講			
		「仕事と人生」の新展開			
専門課程	展開, PDCAによる改善				
英語学習	Call system, TOEIC導入				
		ALT, 一般教養講師の参加			
【融合型授業科目の設置】 専門科目(新規内容導入)	導入準備	展開			
体験実習(拡張)	従来型の展開				
	新展開準備	新展開			
【キャリアデザイン形成支援】 形成支援講座	講座開設準備	運用開始			
卒業生アドバイザー	運用準備	運用開始			
上級生メンター	運用準備	運用開始			
就業ポートフォリオ	運用準備	運用開始			
【地域連携型就業体験】	連携先の開拓	運用開始			
	受入体制整備				
【キャリア形成支援室】	設置準備	運用開始			
	スタッフ確保				
【卒業生ネットワーク】	構築準備	ネットワーク構成・運用			
【評価/点検】	授業アンケート実施 卒業生アンケート実施	授業アンケート実施 卒業生アンケート実施	授業アンケート実施 卒業生アンケート実施 各プログラムの点検 ★中間評価	授業アンケート実施 卒業生アンケート実施	★最終評価 ・卒業生の満足度 ・卒業生の就業力 ・外部評価(就職先)

(3) 取組の実施体制等

「キャリア形成支援室」が取組の中核となりプログラムを進める。支援室は学内で海洋生命科学部の教務委員会、学生指導委員会、就職委員会、および全学就職センターとの連携調整にあたる。学外では地域連携のために企業等との連絡調整にあたる。また卒業生ネットワークの構築と運用を行う（下図参照）。



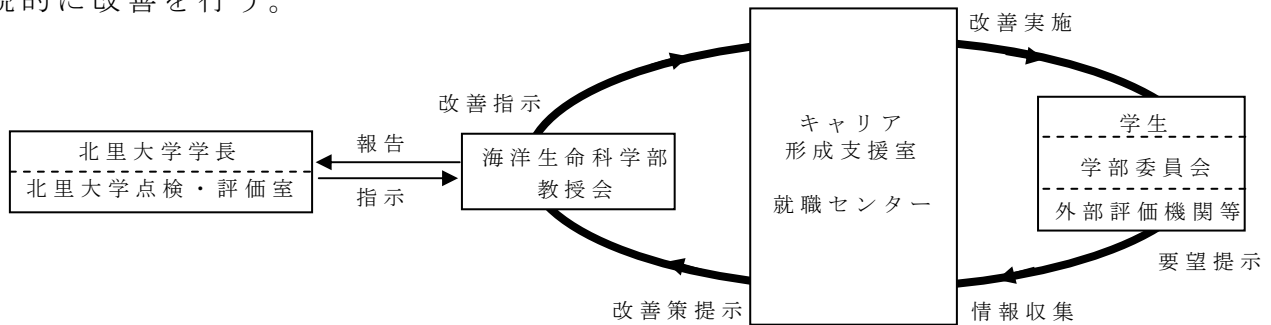
(4) 取組の評価体制・評価方法

① 評価体制

i) 本取組の評価は、大学内の全学・学部評価組織、学外の機関別評価団体、学外の実業界別評価団体によって行う（下表参照）。

機関・組織(下)と評価法(右)	学内評価	機関別評価(外部)	分野別評価(外部)
評価団体・評価組織	北里大学点検・評価室	大学基準協会	日本技術者教育認定機構(JABEE)
学部対応の評価組織	自己点検・評価委員会	同左	同左、JABEE対応委員会

ii) 結果を踏まえキャリア形成支援室が中心となり、下記のPDCAサイクルにより継続的に改善を行う。



iii) 本取組は、取組期間終了後も継続して強化を図るものであり、評価体制は取組期間終了後もその任務を果たす。

② 評価方法

上記の評価体制の下、アンケート調査や実地調査などにより就業力育成に関わる各項目の達成度および取組体制を継続的に評価する。

(5) 取組の今後の展開等

① 取組に係る新たな経費の必要性

現在の「学士力育成」に関わる予算に「就業力育成」を強化するため、下記の「人件費」「旅費」「事業推進費」が必要となる。

人件費： i) 「キャリア形成支援室」への地域連携コーディネーターと卒業生連携コーディネーターの雇用配置、ii) 外部講師と卒業生アドバイザー招聘の謝金、iii) 就職センターへの三陸 - 相模原連携コーディネーターの雇用配置

旅費： i) 三陸キャンパスと相模原キャンパス間の連絡調整のための教職員の旅費、ii) 外部講師と卒業生アドバイザー招聘の旅費

事業推進費： i) 学外機関における就業体験委託費、ii) 卒業生アドバイザーのデータベース構築委託費および関連機器整備費、iii) 体験実習拡充支援費

② 財政支援期間終了後の大学における取組の展開の予定

海洋生命科学部における本取組は、今後の本学における就業力育成のための基準となり得る。従って、財政支援期間終了後も、本学部での予算捻出、大学本部からの資金援助、および外部資金調達を試みつつ、学内外との連携を深めて強化していく。

3 選定の際に付加して考慮する事項について【2ページ以内】

(1)～(2)について、その実施内容(実績または計画(スケジュールが明確な実現性の高いもの))を簡潔に記載してください。

(1) 各大学の強みを生かした大学間連携

- ① 異分野講義： これまでに、東北大学に食品衛生化学を講ずる非常勤講師を派遣し、先方の不足分の充実に助力してきた。本取組の実施にあたっては、本学部で不足している社会科学領域の講師を招聘し、異分野からの刺激を学生に与えて、学士力・就業力育成の糧とする。
- ② 合同企業研究会： 本学部では企業研究会を三陸キャンパス内、および本学が立地する大船渡市内の施設で開いてきた。今年度はこれを新参加企業開拓のため盛岡市内でも実施することにしている。既に岩手大学には企業研究会の将来的共同実施を打診し、良好な回答を得ている。今年度は、その端緒として双方の企業研究会の、教職員による相互視察を計画している。
- ③ 高校生向けシンポジウム共催： 本学部では、近接する大槌町にある東京大学海洋研究所国際沿岸研究センターと「高校生のための海洋生物科学シンポジウム」(下記参照)を共催してきた。今年度はその4回目になる。今後さらに継続して実施することにしている。

(2) 高校生の職業観・勤労観の形成に役立つ高等学校等との連携

- ① 出前講義： 平成19年度より、全国の高校を対象とする「出前講義」を実施している。講義には水産増養殖と水産物利用に直結した内容が多く含まれている。実施実績は平成19年度16件、平成20年度19件、平成21年度24件であった。本年度も19題のタイトルを準備し、全国からの要請に備えている。
- ② 高校生向けシンポジウム共催： 「高校生のための海洋生物科学シンポジウム」を岩手県内の高校生を対処として実施している。講師は本学部および東京大学海洋研究所から派遣し、海洋生物の資源・活用・生態に係わる最先端の研究成果を示して当該分野への意識向上に努めている。平成19年度の釜石市を皮切りとし、水沢市、大船渡市で毎年開催してきた。本年度は宮古市で実施する。
- ③ 見学受け入れ： 過去2年間に、気仙沼高校、宮城第一高校、高田高校、盛岡スコール高校および東邦大学付属高校の見学を受け入れてきた。施設見学と模擬講義が中心であったが、平成20年には宮城第一高校に対して「魚類の解剖実験」も行った。今後も随時受け入れていく。
- ④ 高大連携： 本年度宮古市で開催する「高校生のための海洋生物科学シンポジウム」の準備活動がきっかけとなり、宮古水産高校校長より高大連携の実現について非公式の申し入れを受けている。それによれば、当該高校教員の本学部での研修の、数年以内の実施を目指しているという。上記の「見学」と「実験」の経験に基づき、受け入れを積極的に考えている。

図1. 北里大学海洋生命科学部1年次生の入学時における意識調査(平成21年度学生満足度調査)

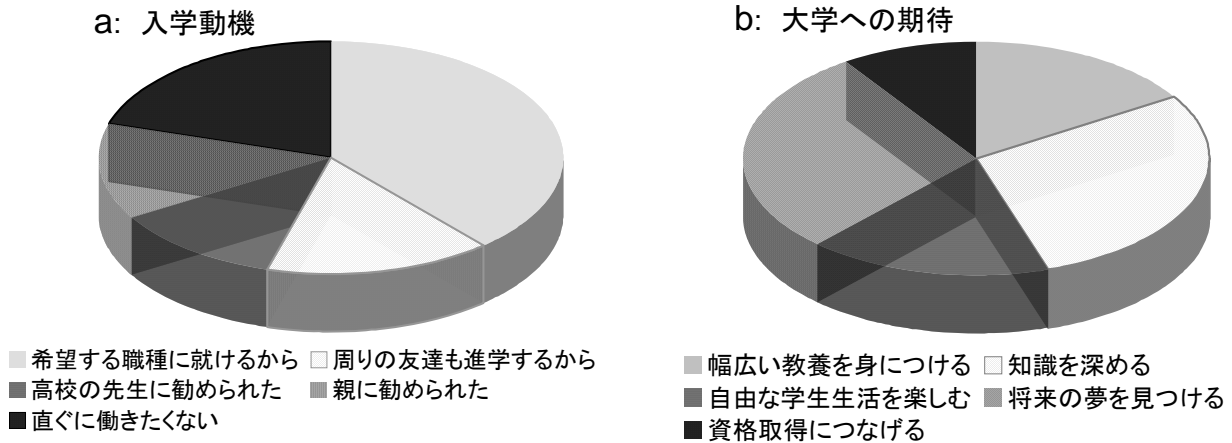


図2. 北里大学海洋生命科学部の学習教育目標(平成22年度学部シラバス)

<p>A. 人類共通の水圏生物資源に携わる技術者として、自然、文化、社会、人間の多面性を認識し、多様な価値観を理解する能力の修得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球的・社会的視点の必要性を述べる力 2. 多様な価値観や文化への配慮力 3. 社会が抱える問題点を列挙する力 4. 水圏生物及び水圏環境と人間との関わりを説明する力 	<p>E. 与えられた条件の中で実験を遂行し、結果を解析、考察する能力の修得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 協力して調査・研究する力 2. 与えられた条件下で調査・研究する力 3. コンピューターを用いてデータを解析する力 4. 得られた結果を客観的に考察する力 5. 期限内に論文をまとめる力
<p>B. 数学、自然科学、情報技術に関する基礎知識と、それらを海洋生命科学分野の問題解決に応用する能力の修得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物学、化学、物理学の基礎的用語を説明する力 2. 自然現象や科学技術を生物学、化学、物理学の基礎知識に基づいて認識する力 3. 数理的考え方を問題解決へ適用する力 4. コンピューターの基本操作 	<p>F. 自分の考えを的確かつ論理的に表現する能力、および英語によるコミュニケーションを図るための基礎能力の修得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英文の科学論文を読み、要点をまとめる力 2. 論旨の通った文章を日本語で書く力 3. コンピューターを用いて効果的なプレゼンテーション資料を作成する力 4. 研究内容について日本語で要領よく説明する力 5. 外国人と平易な英語でコミュニケーションする力
<p>C. 水圏生物の生理・生態、環境との関わりなど海洋生命科学に関する基礎知識と、多様な分野に対応する能力の修得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物資源としての水圏生物の化学的特性を説明する力 2. 水圏生物資源の持続的な利用における生物の多様性・育む環境の重要性を認識する力 3. 水圏生物の生理生態学的特性を群、個体、細胞、分子レベルから説明する力 4. 増養殖・育種、資源管理、食品製造・流通に関わる技術を説明し、その問題点を指摘する力 5. 習得した知識を問題解決への応用力 	<p>G. 専門技術者として責任ある社会活動を可能にする倫理観の修得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理および環境倫理に関する諸問題を列挙する力 2. 製造物責任法とその対応策であるHACCPの原則を説明する力 3. 生物資源維持と環境保全の重要性を説明する力 4. 人類の活動が海洋の現象に影響を及ぼす例を列挙する力 5. 科学の功罪について説明する力
<p>D. 情報を収集・分析して水圏生物資源の利用に関する問題を発見し、その解決策をデザインする能力の修得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な手段を用いた情報収集力 2. 収集した情報を適切に整理する力 3. 情報を客観的かつ批判的に分析する力 4. 課題解決のための仮説を設定し、検証のための実験計画を立てる力 	<p>H. 継続的に学習しながら、絶えず変化する科学技術に迅速に対応する能力の修得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら短期目標を設定し、達成度を評価し、自己改善へつなげる力 2. 最新の知識や技術に興味を持つ力 3. 学習のための機会や手段を有効かつ積極的に活用する力

図3 海洋生命科学部教育プログラムのカリキュラム流れ図(学部HP)

(○:概ね達成、△:改善が必要; A~Hは図2参照)

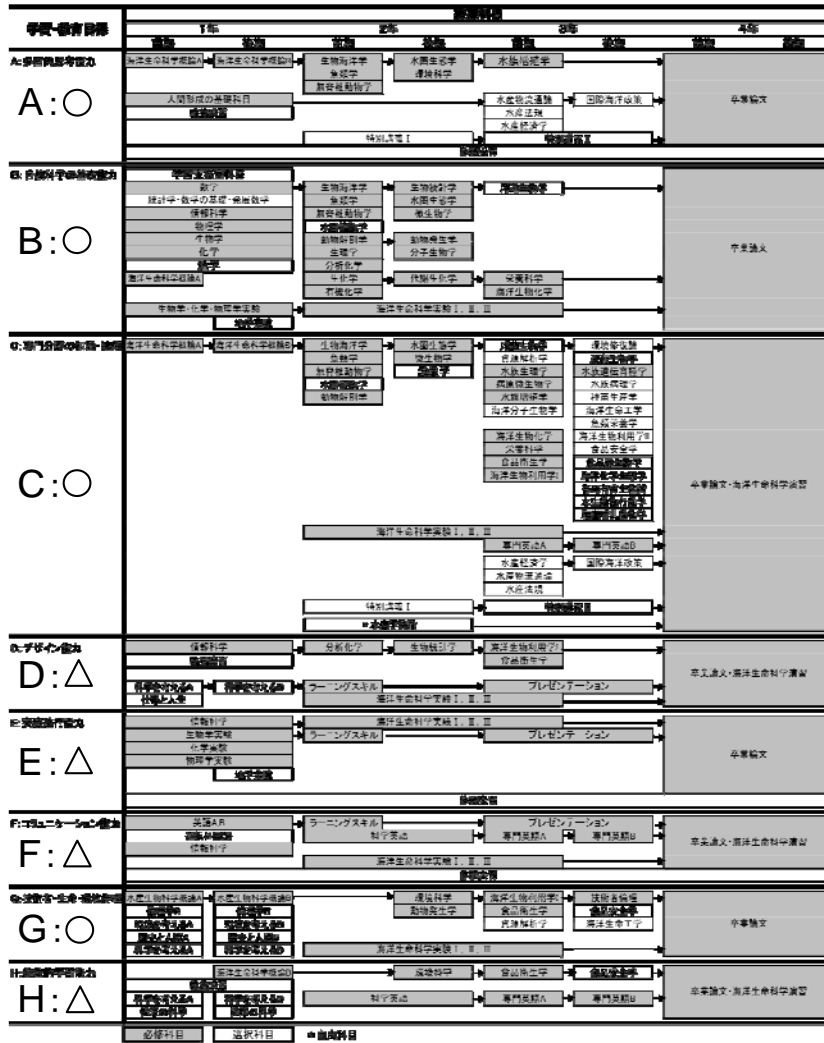


図4 正課教育・課外教育に対する高い評価

	内部評価	外部評価機関			
	学生アンケート	有識者評価	企業アンケート	JABEE	大学基準協会
正課教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学部教育への満足度 ・体験実習 ・学部の授業内容 ・卒論研究での経験、卒業後の学習継続の意思 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の構成 ・少人数制専門英語教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門に対する知識 ・環境倫理に対する理解 ・自活能力と適応性 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部への高い帰属意識 ・適切な学習教育目標の設定 ・授業評価システムの効果的運用 ・適切なシラバスの掲載と周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部への高い帰属意識
課外教育	<ul style="list-style-type: none"> ・就職ガイダンス ・企業説明会 				
評価年次	平成21年	平成12年	平成15、21年	平成16、21年	平成21年

図5 正課教育・課外教育に対して指摘された改善点

	内部評価	外部評価機関			
	JABEE対応委員会	有識者評価	企業アンケート	JABEE	大学基準協会
正課教育	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、工夫する能力 ・日本語、外国語によるコミュニケーション能力 ・デザイン能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験型実習の量 ・外国語教育の量 ・地域に関連した教育の量 ・水産業に関連した科目数 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力 ・英語表現能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的学習能力 ・外国語コミュニケーション能力 ・達成度評価の公開度 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の要望くみ取り方法の周知
課外教育	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な情報情報収集力 ・就業意識 			<ul style="list-style-type: none"> ・技術士の仕事内容の周知 	
評価年次	平成21年	平成12年	平成15、21年	平成16、21年	平成21年